



新潟市秋葉区にあるショールームの様子。重厚感はありながら、華やかな色合いを避け、シンプルな紋様の絨毯は日本の住宅にもぴったり。

## 売り手、買い手、つくり手、 みんなが幸せになる物づくり

「三方よし」とは、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という近江商人の哲学をあらわした言葉です。商いにおいて、商人だけが得をするのではなく、商品を購入した人や社会にも貢献できる働きを目指す。その理念に共感し、「三方舎」を設立しました。

特に大切にしているのは、「作り手」の想いです。上質な天然素材を用い、作り手の想いのこもった、長く愛せるものを生活の中で使っていたくことで、ものを大切に思う心、環境への配慮を伝えた。その結果、作り手も豊かになる。幸せの循環を起こしたい。それが私の役割だと思っています。

これまで20年近く関わってイラン遊牧民の手織り絨毯「ギャップ」を選定し、日本中に紹介してきましたが、「三方よし」を願ひ、モロッコの人々と一緒に汗をかきながらあらたな物づくりができる幸せとやりがい日々実感しています。

そんな中、出会ったのがモロッコの小さな村でつくっていた絨毯です。化学繊維や機械織りの普及で途絶えてしまった織物の伝統を復活させようと、何度も現地足を運び、4年前にプロジェクトを立ち上げました。協働しているオーストリア人の大学教授が草木染織を伝授し、私が紋様のデザインや手織り技術の提供、販売までを担っています。



Profile  
三方舎 代表 今井正人  
1969年、新潟県生まれ。イラン遊牧民の手織り絨毯の中でも芸術性・品質の卓越した「アートギャップ」の魅力为全国に広めた中心的存在。2011年、伝統染織の復興・継承プロジェクトを行う三方舎を設立。現在はモロッコを中心に活動している。



本物を  
追求する  
熱き人々  
2

## 「三方よし」の理念で 人々の感性を豊かにしたい

三方舎 代表 今井正人

次の世代に手渡したいのは、  
本物を選択する価値観と豊かな感性



現地の女性協同組合でつくった革小物。モロッコに足を運ぶうちにかかわるようになった



毛足の長い羊毛で織られているだけあって厚みもたっぷり。こちらは座布団サイズの絨毯



世界中を旅してきた今井さん。トルコで出会ったタイル画や絨毯などが並ぶ



紋様の意味は、危険や嫉妬心から家族を守る魔除け、繁栄・成功・長寿の願いなど。自然の恵みへの感謝とともに「幸せが八方に広がりますように」との願いが込められた図柄が多い



ショールームには、モロッコ絨毯のアンティークコレクションのほか、今井さんが国内外から集めた調度品の数々も展示されている

日本とモロッコを  
つなぐ想い  
一枚に込めて



### 三方舎

〒956-0864  
新潟県新潟市秋葉区新津本町3丁目4-22  
☎0250-25-3939  
<http://www.sps-i.jp/>

[ショールーム]GOSHIMA COLLECTION  
〒956-0031 新潟県新潟市秋葉区新津4462-3  
インテリアショップ ポー・テコール新館2F  
営業時間 10:00~19:00  
定休日 毎週水曜日

幸せを願い、  
想いを込めた  
心を育む織物

### 本物を身近におくと 自然と感性が育まれる

みんなが集まるリビングに敷かれた絨毯は、何十年の間、ずっと家族の歴史を見守り続けてくれます。世の中には安く大量につくれる絨毯もたくさん出回っていますが、わずか数年で捨ててしまいうものを選ぶ時代はもう終わり。これからは、「本物を長く使い続けたい」と考える人たちが増えて

いくのではないのでしょうか。

私は、家も同じだと思います。自然素材を使い、人の手で丁寧に造られた家は、使い込むほど表情豊かに育っていきます。たとえ、傷や汚れがついたとしても、そこに家族の思い出を刻みながらともに成長していくもの。

そんな本物に囲まれて育ち、おらかな感性を持った子どもたちが、素晴らしい未来をつないでくれることを願ってやみません。

### モロッコと日本の 伝統的な図柄を融合

現在では、モロッコ王室御用達の絨毯工房にも依頼し、より品質の高い織物をつくっています。

GOSHIMAロイヤルコレクションと名付けた絨毯のデザインは、モスクの壁画や、モロッコに古くから伝わる繁栄や魔除けをあわす紋様などをもとに、日本家屋にも合うようアレンジ。たとえ



日本の七宝紋様に似た途切れのない幾何学模様が悠久の願いと応答する。100年ほどつとられる上質な羊毛は脂肪分を含むため水分をはじき、汚れにくい特徴もある

ば、日本に数百年前から伝わる七宝紋様と融合させ、深い藍色に染めた羊毛で織り上げた絨毯は、派手さこそありませんが、流行に左右されず、日本人の奥底に眠るDNAを目覚めさせるようなどこか懐かしい趣を持っています。

羊毛は標高2000mを超えるアンチアトラス山脈に生息する長毛の羊の毛を使っています。一日の寒暖差の激しい高地で育まれた上質な羊毛は保温性・調湿性に優れ、冬は暖かい空気の層をつくり、夏はさらさらとした肌触りで一年中快適に過ごすことができます。

染色にはモロッコの大地の恵みであるヘナ、レセダ、茜といった草木を使い、何度も染め重ねて深みのある色合いを出しています。その羊毛を織り子さんが一枚一枚手織りで仕上げていきます。

制作期間は3畳ほどの大きさで半年から1年。ほとんどが受注生産ですが、依頼者の写真を現地に送り、織り子さんはその人の顔を見ながら想いを込めて織っていきます。そうしたもののづくりの背景まで想像すると、単に「絨毯」というだけではない、もっと深い価値を感じていただけるのではないのでしょうか。